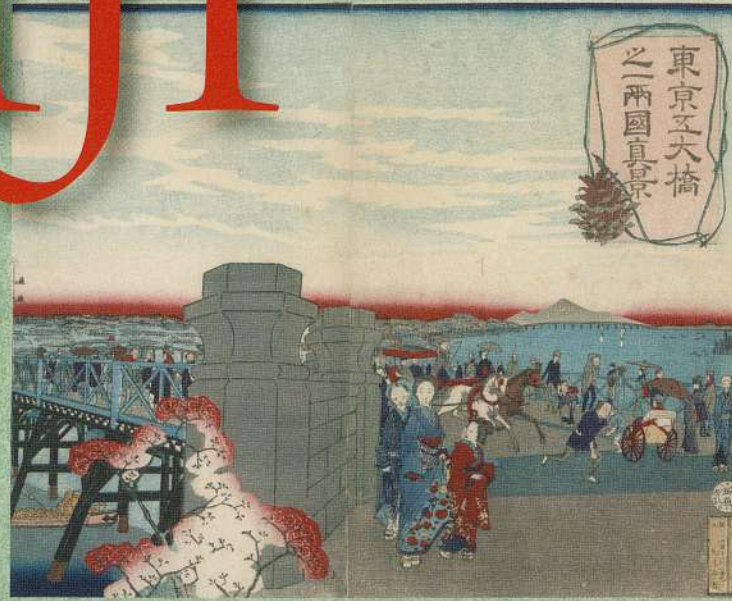


# MEIJI MURA

明治村だより

Vol.71 2013 Spring



CONTENTS

西園寺公望別邸「坐漁荘」保存修理工事の進捗状況 2  
 田山方南生誕百周年記念企画展「季のこと」 ..... 6  
 春の催しもの ..... 8  
 A La Meiji-mura ..... 10

## 小沢昭一村長を悼む

小沢昭一村長は、初代の徳川夢声村長、二代目の森繁久彌村長に続いて、平成16年3月から三代目の村長として、明治村の精神を広く世の中に伝えてくださいました。

明治村にとって、まさしくそれは、小沢昭一的ところに満ちた、あたたかい励ましてありました。

このたびのご逝去に心より追悼申し上げます。

平成24年12月10日

博物館明治村 館長 鈴木 博之

小沢昭一村長が平成24年12月10日、満83歳で永眠されました。

小沢村長は平成16年3月27日に就任以来、明治村の開村40周年を記念してCD「明治村から」(平成17年2月)を制作、また「文化的な明治のころを少しでも通わせる」ために、「少年探検隊」「小沢昭一的 芸能のころ」「長講一席 小沢昭一的ころ」「小沢昭一的 明治演歌のころ」「小沢昭一的 敬老のころ」などと題して、数々のご講演をいただきました。

なお、葬儀・告別式は12月15日、東京・千日谷会堂においてしめやかに執り行われました。

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

### 表紙について



鳴響茶利音曲馬【なりびくチャリネのきよくば】  
 梅堂 国政 画 明治19(1886)年  
 1886年に来日したイタリアのチャリネ一座の公演に強い衝撃を受けた五代目尾上菊五郎が演じた「鳴響茶利音曲馬」という猛獣使いなどが登場する歌舞伎を画題としている。



東京五大橋之一両国真景 小林清親 画 明治9(1876)年



東京名所 浅草金龍山遠景 新開池之図 井上探景 画 明治22(1889)年

平成25年3月15日発行  
**「明治村だより」第71号(平成25年春)**

発行 博物館明治村  
 〒484-0000 愛知県犬山市内山一番地  
 電話 (0568) 67-0314  
<http://www.meijimura.com>

製作 株式会社DNP中部

「明治村だより」第72号発行のお知らせ  
 発行時期 平成25年7月中旬(予定)  
 申込方法 「明治村だより」第72号ご希望の旨及びご住所・お名前を明記の上、送料140円切手とともに封書にてお申し込み下さい。



# 西園寺公望別邸「坐漁荘」

## 保存修理工事の進捗状況

西園寺公望別邸「坐漁荘」は平成二十四年五月十四日より保存修理工事に着手しています。

ここでは、今回の修理工事の概要とこれまでの工事の進捗状況を写真とともにご紹介いたします。

西園寺公望別邸「坐漁荘」は大正九（一九二〇）年に、政治家西園寺公望の別荘として静岡県興津に建てられました※1。西園寺公望は、晩年をこの坐漁荘で過ごしたことで知られており、建物から見る清見潟の景色を大変好まれていたそうです。数寄



写真1 修理前南側全景

屋造の建物は、随所に銘木を使用しており、一見、質朴さを感じさせつつも仕事の質が非常に高く、玄人好みといえる建物でしょう。本建物は、昭和四十六（一九七二）年に博物館明治村に移築されています。この度の修理工事は、移築竣工以来、初めての大きかりな修理工事となります（写真1、図1）。今回の修理工事

の方針は、(一)瓦屋根及び銅板庇の全面修理、(二)各部屋の基礎、床組の修理、(三)建具等、仕上げ造作部分の修理と大きく三つに分かれます。また、この他に植工事や外壁の杉皮張の張り直しなどが附随いたします。(一)屋根部分の瓦をすべて下ろし、現在は、野地板の解体、屋根小屋組の腐朽箇所の確認、取替え修理を行っています。(二)各部屋の床組みを解体、湿気防止対策と既存の独立基礎補強を兼ねて土間コンクリートを打設、柱や土台等の軸組の腐朽箇所の修理を行っています。(三)建具や欄間等の造作部分は、取り外せるものはすべて取り外し、保管小屋に一時仮置きをしておき、今後、これらの修理も随時行っていく予定です。

以下に、上記に示した三つの修理方針において、特に苦勞を要する解決すべき問題点を取り上げてみました。

まず、屋根部分ですが、坐漁荘の屋根は棧瓦葺周囲に銅板庇を腰葺という形式で廻していることが特徴です。近年、この腰葺は瓦と銅板の接触部分において、銅板が劣化、穴があき雨漏りが発生するという被害が、各地で数多く発生しています。坐漁荘においても移築竣工以来、幾度か応急的な修理が重ねられてきましたが、全体に亘って著しい銅板の穴あき破損がみられ、このため軒上裏の部材のほとんどが腐朽・劣化しており、特に被害が著しい箇所においては軒庇全体の垂下が問題となっていました（写真2、3）。今回の修理工事においては、腐朽

の劣化も目立ち、平瓦の割れ、剥落等の劣化が著しく認められました（写真4）。このため、平瓦はすべて新たに作り直しとし、屋根荷重を少しでも軽減させるために、空葺きの仕様といたします。一方、鬼瓦はすべて状態がよいので再用し、軒瓦、冠瓦等は状態の良いものを選別し半数ほどを再用することとしています（写真5、6）。

坐漁荘の屋根は複雑に重なり合って構成されているため、どうしても雨水処理に対して弱点となる箇所が生じます。特に、一階台所部分は長らく雨漏りを止めることができず、写真7にみえるように屋根下地は腐食のために穴が開き、小屋組の部材の多くを取り替える必要が生じました（写真7、8）。

次に、床組についてですが、修理前、坐漁荘の床下は湿気が著しく、部材の状態もよくないことが確認されていました。これは、床下土間からの湿気はもちろん、周囲の地盤レベルより、建物内部の土間床レベルが低いことから、建物内部に雨水が浸水してしまうことが大きな原因であることが判りました。特に、一階応接室、サンルーム部分の床組み部材は腐朽が著しく、ほぼすべての部材を取り替える



写真5 屋根既設瓦捲り状況



写真6 屋根小屋組



写真7 台所部分屋根下地の劣化状況



写真8 台所部分屋根下地の復旧



写真4 大屋根の瓦劣化状況詳細



図1 平面図と室名称 (※2)



2階



写真3 二階南面庇上裏の劣化



写真2 主屋東側銅板葺劣化状況



写真9 接室の床板捲り



写真10 応接室の床組状況



写真11 サンルームの新補土台加工

必要があることがわかりました(写真9、10)。今回の修理工事においては、土間コンクリート打設によって、床下からの湿気は改良されますが、加えて、周囲の地盤を漉き取り、地盤レベルを下げることに、より、外部からの浸水を防ぎ、さらに建物外側から基礎の補修と防水を合わせて行っていく予定です。また土台取替えや柱の根継ぎとあわせて、揚げ屋を行ない、建物全体の床組レベルの調整を併せて行っています(写真11、12)。

最後に、建物内部の造作部分についてです。西園寺公望は竹を非常に好んだと伝えられていますが、実際に坐漁荘の内部には、多くの竹材が使用されています。これまで、これらの竹材には虫害による穴あき被害が多く確認されてきました。近年の調査により、坐漁荘に見られる虫害は、主にタケトラカミキリとチビタケナガシクイの二種類によるということがわかりました。タケトラカミキリは直径四〜五ミリの穴を、チビタケナガシクイは二ミリ程

の細かい穴を竹材に数多くあけることで知られていますが(写真13)。今後、さらなる虫害被害防止のための対策を講じることはもちろんですが、取り替えることのできない銘木



写真12 サンルームの土台取替え状況

としての希少材にあげられた虫害痕を、化粧材としての姿を保ちつつ補修することが課題です。今回の修理にあたっては、新たに補充する竹材は一度燻蒸したものを使用することとし、既設の部材についても区画を区切って燻蒸処理を行うことを予定して



写真13 化粧室曲竹のタケトラカミキリによる虫害状況

います。また、主要な部材にあげられた比較的穴の大きな虫害痕については、樹脂を使用して繕いを行います。以上、坐漁荘のこれまでの修理工事について主な修理項目を纏めてみました。現在、工事は、ようやく折り返し地点にさしかかってきたといえます。今回の修理工事は規模も大きく非常に複雑な工事であり、まだまだ説明が足りませんが、少しずつ整理をして、工事中に判明したことなどを、また紹介することができればと考えております。本修理工事を経て、坐漁荘が建物本来の風格を取り戻すことができるよう努めてまいりますので、楽しみにお待ちいただければ幸いです。

※1 本建物は昭和四(一九二九)年に応接室部分などを増築していることが知られている。  
 ※2 本室名称は移築時調査の折に図面作成された室名称等に基づき、修理工事遂行のために、便宜上新たに設定したものである。

博物館明治村の活動にご支援いただいた方々

- 学校法人北里研究所 理事長 柴忠義  
 名鉄協力会  
 小弓鶴酒造株式会社  
 医療法人 岡胃腸科・内科
- アコムレンタル株式会社  
 日の出屋製菓産業株式会社  
 特定非営利活動法人半田市観光協会
- 小熊 和子  
 近藤 正  
 篠原 理  
 高木 佳昭  
 藤村 茂  
 藤原 健  
 水谷明寿香  
 森 啓成  
 宮地 靖広  
 宮地 祥子  
 相川賢太郎  
 久保井晶子  
 江河 亨  
 浅井 健  
 高村 一弥  
 大原 正宏  
 大原 裕子  
 萩 祐司  
 梅村 隆  
 荒井たつよ  
 土屋 和男  
 役員 文範  
 祖父江勇二  
 祖父江 勇  
 後藤 厚  
 高野 啓子  
 岡 潔  
 岡 道太  
 岡 紫乃  
 岡 見  
 岡崎 隆司  
 佐藤 幸夫  
 佐藤 明  
 渡辺美奈子  
 沖山 和也  
 秋田 幸哉  
 古田 孝  
 井上 稔朗  
 早川 隆  
 片山 雅裕  
 稲垣 淳
- 坂本 千春  
 荒川 裕子  
 本田 鉄朗  
 岡本 浩成  
 稲井 清次  
 下山 悠  
 高柳 俊彦  
 野中 直樹  
 井上 恵介  
 深見 忠明  
 尾宅 崇  
 齊藤 環  
 平野 毅  
 川島 宗幸  
 志水 泰之  
 鈴木 淳  
 小林 直樹  
 注連野泰栄  
 所 秀明  
 脇田 雅之  
 石崎 庸一  
 脇本 英生  
 戸崎 達也  
 喜瀬 茂樹  
 遠藤 雅行  
 成瀬 俊樹  
 雑賀 俊宏  
 平野 英男  
 三井寺茂樹  
 成瀬 裕子  
 桑原 順  
 片岡 猛彦  
 那須 恵子  
 森島しほり  
 三浦 克明  
 加藤 恵子  
 春田 晶代  
 黒田 啓三  
 藤井 祐紀  
 磯貝 友里  
 奥 弘
- 浅野 智彦  
 近藤 由美  
 堀尾 熟生  
 富川桂二郎  
 長谷部 等  
 村田 義郎  
 杉浦 大輔  
 畑中 美希  
 島田ひろみ  
 近藤 瑞穂  
 浅野 剛史  
 谷口 清美  
 秋山 美幸  
 浮貝 高敏  
 島山 卓也  
 塩谷 尚斉  
 犬飼 佳明  
 小西 桃子  
 野村 佳代  
 清水 貴裕  
 藤山 淳司  
 調 浩朗  
 高橋 淳美  
 杉村真智子  
 賀上 貴明  
 神保 幸則  
 大平 邦夫  
 佐野 匡  
 山崎 洋一  
 渡部 浩一  
 野口 尊如  
 藤村 雄一  
 郷緒 厚志  
 石川 遼  
 河辺 朋己  
 植松 栄作  
 後藤 康  
 小野 豊  
 高須賀敬一  
 丹羽 誠治
- 井上 俊之  
 岡部 敏夫  
 高橋 芳子  
 安田真由子  
 岩田 慎  
 深川 育子  
 後藤久美子  
 桐山 知子  
 佐々木和彦  
 佐々木 油  
 佐藤 至康  
 加藤 浩司  
 松田 浩司  
 平野 雅也  
 山田 宗克  
 近藤 昭子  
 近藤 薫  
 井井 清文  
 井川 元  
 亀井 清文  
 馬淵 誠  
 後藤 亮次  
 中川 雄次  
 中川 健志  
 鈴木 雅宏  
 牧野 幸雄  
 小笹 幸弘  
 橋本 毅  
 小倉 匠  
 船橋 利幸  
 吉田 綾  
 井上 美枝  
 岩城 敬之  
 山本 永幸  
 千田 康央  
 藤吉 智哉  
 川上 昌代  
 原田 浩史  
 増岡 健二  
 石川 英三  
 衛藤 正  
 富永 正
- 浅井 元子  
 竹村 保  
 杉藤 哲也  
 原 信行  
 松尾 秀人  
 田中 達司  
 岡谷 利之  
 原 佑友  
 井上 誠司  
 政氏 信之  
 西川 克己  
 栗林 洋二  
 佐々木 学  
 川上 貴文  
 熊崎 米松  
 高田 知博  
 志田 智之  
 加藤 哲生  
 渡辺 典男  
 関口 節也  
 関居 裕登  
 住 美希恵  
 高橋 克昌  
 尾野 祐規  
 高橋 則忠  
 常松 優  
 中山 吉人  
 平井 文康  
 松本 純代  
 出海 邦茂  
 伊藤 治美  
 三浦 嘉幸  
 町田 明美  
 伊藤 文彦  
 渡邊 宏樹  
 荒木 一郎  
 阪西 裕子  
 加藤 孝廣  
 竹内 正治
- (順不同 敬称略)

# 「季のこと」

本年は、財団法人明治村常務理事を務められた、田山方南氏（写真1）の生誕百周年にあたります。田山氏は国宝鑑査官、文化財調査官、墨蹟研究家として多数の功績を残されるとともに、書道、詩歌、陶芸そして茶道などにも親しまれました。

第四高等学校の同級生であった谷口吉郎氏（初代館長・東京工業大学名誉教授）と土川元夫氏（明治村常務理事・名古屋鉄道会長など歴任）とともに開村間もない明治村の礎を築き上げられました。また晩年には自筆および交友があった人々の書や書簡、そして蒐集された古典の書等の書約七百点を、「方南文庫」として明治村にご寄贈いただきました。

今回は田山氏の生誕百周年を記念して、この「方南文庫」に収められた書簡を出品いたします。

## 田山方南氏について

田山方南氏（本名、信郎）は、明治三十六（一九〇三）年に三重県阿山郡大山田村（現在の伊賀市）の曹洞宗万像寺住職、川合松吟・蓮枝との間に生まれました。

大正十（一九二一）年、三重県第三中学校（現在の三重県立上野高等学校）を卒業後、同県上野市で製菓会社を営んでいた田山八十吉の養嗣子となり、以降川合姓から田山姓を名乗られました。

「方南」という号は、昭和十年ごろに東京都杉並区の

方南町に新居をかまえた時に、町名にちなんで用いられるようになったといわれています。

翌大正十一（一九二二）年、石川県金沢市の第四高等学校（現在の金沢大学）文科に入学します。同年、谷口吉郎氏と土川元夫氏も同校理科に入学しています。大正十四（一九二五）年に四高を卒業すると、同年東京帝国大学文学部国史学科に入学し、日本の古文書を確立した黒板勝美博士などに師事されました。

昭和四（一九二九）年には黒板博士の推薦などもあり、文部省宗教局国宝調査室の国宝鑑査官補に着任されます。以降、昭和四十（一九六五）年に退官されるまで、文化財保護制度の変遷とともに、その最前線で古文書、古典籍など数々の文化財の調査に取り組みました。その集大成として昭和三十五（一九六〇）年に『禪林墨蹟』上下巻、同四十（一九六五）年『続禪林墨蹟』上下巻、



写真1 田山方南氏（第5回明治村茶会 坐漁荘席にて）昭和46（1971）年

そして昭和五十二（一九七七）年には『禪林墨蹟拾遺』と大著を次々と刊行され、墨蹟研究の第一人者として世に知られることとなりました。

## 方南文庫について

田山氏は、長年にわたって墨蹟の調査に携わると同時に幼い頃から学ばれた書道をはじめ、茶道、陶芸、和漢の詩歌にも親しむことで、多彩な人々と交友を結ばれました。そのため方南文庫には、多岐に渡る分野の方々の書や、研究を通じて集められた古典の書などが収められています。

これらはすべて軸装され、田山氏の分類によって整理されたものが、木箱に収められています。明治村では、公開している多くの日本家屋の床の間に、季節に合わせたこれらの書を飾るほか、過去五度にわたり特別展、企画展をおこないました。

## 企画展「季のこと」について

今回の企画展でご覧いただく書簡は、田山氏と親交のあった数寄者や俳人との間でやり取りされたものです。自身「毛筆礼賛者」であると語っておられるように、書簡はすべて毛筆でしたためられた美しいものばかりです。

これらの書簡には、文や添えられた詩歌、絵に、季節の「ことば」や「できごと」が散りばめられています。本展示では、これらを総じて「季のこと」と名付けました。これら「季のこと」は、書簡の送り手が目にした情景や、心の動きが託されています。ですが、受け手の方で「季のこと」に託された内容を読み解くことができないと、送り手の意図が十分に伝わることなく文中に埋もれてしまいます。

展示では、書簡の中に出てくる「季のこと」や、知っていただと理解が深まる言葉についての説明を、

## はるごたつ【春炬燵】

春になっても寒さがぶり返すために、なかなか炬燵をしまうことができない様子。

## ゆくはる【行く春】

春の終わりを指す言葉。去りゆく春を見送る思いが込められている。

## はるのよ【春の夜】

霞がかり、しっとりとした春の夜の様子。

## はなづきよ【花月夜】

月明かりに照らされた、美しい夜桜の情景。

## はるきょう【針供養】

いつも使っている針を休め、針への感謝と裁縫の上達を祈る行事。古い針や、折れた針を神社に持ち寄り、豆腐やこんにやくに刺すなどして供養する。

## ひなながし【雛流し】

三月の節句に、紙製の雛などに災いを託し、海や川へ流すことで無病息災を願う行事。

会場では、二十九点の書簡を春夏秋冬の「季のこと」とともにご覧いただけます。



写真3 「カタクリの小径」の片栗

●参考文献  
白井史朗 『昭和の茶道「忘れ得ぬ人」』 淡交社 一九九三年  
田山方南 『筆と土』 田山方南古稀記念刊行会 一九七三年  
羽田清見編 『田山方南追憶録』 灯庵会 一九八一年  
〔古本〕 俳句歳時記 第四版 角川学芸出版 二〇〇八年

## 季のこと 春編

### ●動物

#### ほたるいか【蛍烏賊】

体の表面にたくさんの発光器を持ったイカ。晩春の夜に、雌が産卵のために群れをなして海岸近くまで押し寄せる。刺身や茹でたものを酢味噌で和えて食べる。

### ●植物

#### ふきのとう【路の莖】

早春に地中から顔を出す路の花のつぼみ。ほろ苦い風味があり、天ぷらや踏味噌などにして食べる。

#### まんさく【万作・満作・金縷梅】

早春に黄色い花を咲かせる落葉樹。花の色が淡いものは銀縷梅とも呼ばれる。他の花に先がけて「まず咲く」ことから、「まんさく」と呼ばれるようになったといわれる。

#### もずく【水雲・海雲】

糸状の枝を持った、柔らかく粘り気のある海藻。春から初夏にかけてよく育ち、酢の物などにして食べる。



写真2 菊の世酒蔵前の紅梅

## かたくり・かたかこ

【片栗・堅香子】（写真3）  
早春に薄紫色の花をうつむき加減に咲かせる山野草。

古名は「かたかこ」。

## ●暮らし

### きのめでんがく

【木の芽田楽】  
豆腐を平串に刺して焼き、木の芽味噌を塗ったもの。木の芽とは、三月頃に芽吹いた山椒の若葉のこと。

# 明治探険隊

時を超えたトリック  
～第一章 天才奇術師、現る。～

「探険の書」に記された暗号を解いて明治村に隠されている宝箱を探し出す、国内最大級規模の実体験型ロールプレイングゲーム「明治探険隊」が今年も始動！8年目を迎える今年から3年間、「時を超えたトリック」をテーマにストーリーが展開します。三部作の第1弾となる今年は、妖しい魅力の天才奇術師が登場！ファミリーで、カップルで、友達同士で、みんなで楽しく明治村を謎解き探険しよう！

期間  
平成25年  
3月2日(土)  
～  
7月28日(日)

★ コース紹介 ★

TRICK W (トリック☆ワガハイ)	TRICK I (麗しきマダム 貞奴)	TRICK II (変幻自在の脱獄囚)	TRICK III (特異な島)	TRICK IV (認められた能力)	TRICK V (幻)
(小学生向け) 小学生向けの最初級コース。低学年のみんなは、お父さん・お母さんと一緒に挑戦しよう！	(初級) 初めて探険隊に参加する大人の方は、このコースからのチャレンジがGOOD。ファミリーでの参加にもおすすめです！	(中級) 「探険隊」に参加したことのある方や「ちょっと難しいのも解いてみたい」という方はこのコースからの参加がオススメ。アイテムが付いているオススメコースです。	(上級) もしかしたら1日で解けないかも…!?難しい謎ほど燃える!という「明治探険隊」ファンの方に挑戦して頂きたいコースです。	(難関) TRICK I～IIIいずれかをクリアした方限定の難コース! ※参加には合格印の押された「探険の書」(TRICK I～IIIのいずれか)の提示が必要です。	(超難関) 「TRICK IV」をクリアした方限定の超難関コース! ※合格印の押された「探険の書」(TRICK IV)の探険の書の提示が必要です。
250円	400円	500円	500円	1,000円	1,000円

奇術師のびっくりグルメ



奇術師のシルエット シークレットオムライス ワガハイわがままネコまんま2013



田山方南生誕百十周年  
記念企画展

「季のこと」

開催日：3月2日(土)～5月26日(日)  
会場：三重県庁舎

詳しくはP6～7をご覧ください。

## 春の明治村

3月2日(土)～6月30日(日)

### マジックショー

日本国内及び海外でも数々の賞を受賞し2005年にはアメリカで行われた歴史ある大会にゲスト出演するなど、いま最も注目されている若手マジシャンの一人DAIKIが重要文化財「呉服座」で奇術(マジック)を披露します。

開催日：3月17日(日)、23日(土)、4月14日(日)、21日(日)、5月18日(土)、26日(日)  
会場：呉服座  
時間：12:00～、14:00～  
出演者：DAIKI

### ごふく寄席

会場：呉服座  
時間：12:00～、14:30～(各約40分)  
開催日・出演：  
6月2日(日) 岐阜大学落語研究会  
6月9日(日) 雷門福三(落語家)、雷門獅筆(落語家)  
6月16日(日) 岐阜大学落語研究会  
6月22日(土) 岐阜大学落語研究会  
6月29日(土) 雷門幸福(落語家)、古池鱗林(講談師)

### 春のスイーツフェア



フルーツドック ストロベリーワッフル なか井あんみつ  
※写真は一例です。お楽しみスイーツはこのほかにもあります。

### 明治体験処 ハイカラ衣装館

料金：800円(5分間)  
矢絣を着てレンガ通りを歩けば気分は明治の女学生！

3月9日(土)  
NEW OPEN!

### 春のウェディングフェア

模擬挙式や披露宴メニューの試食など明治村ウェディングの魅力をご紹介します。  
開催日：3月31日(日)  
お問合せ先：明治村プライダルデスク TEL(0120)78-2205

## ゴールデンウィークの明治村

延長開村 9:00～18:00  
4月27日(土)～29日(祝)、5月3日(祝)～5日(祝)

### 緑風茶席

春の清々しい空気を感じられる日本庭園に野点席を設けました。気軽楽しめるお茶席です。  
開催日：4月27日(土)～29日(祝)、5月3日(祝)～5日(祝)  
会場：日本庭園  
時間：10:30～ ※菓子がなくなり次第終了  
料金：一服600円(特製和菓子付) ※雨天中止

### オカリナアンサンブルコンサート

開催日：4月27日(土)～29日(祝)  
会場：聖ザビエル天主堂  
時間：11:00～、13:00～、15:00～(各回約30分)  
出演者：ジョイーレ

### クラリネット&フルートコンサート

開催日：5月3日(祝)～6日(休)  
会場：聖ザビエル天主堂  
時間：13:00～、15:00～(各回約30分)



開催日：3月2日(土)～6月30日(日)  
正岡子規の俳句と子規ゆかりの人々を村内各所に訪ねながら、明治村を楽しみ散策していただく健康イベント。タイトルは「子規」と「四季」、「俳句」と「ハイキング」をそれぞれ掛けています。春の明治村で、あなたも一句詠んでみませんか？

## 明治村茶会

事前予約制・有料

明治村の建築物を利用した、開かれたお茶会です。どなたでもお気軽にお申し出いただけます。

開催日：4月12日(金)、13日(土)  
参加費：15,000円(入村料込)  
電話にてお申込みください。(締切4月4日)  
電話受付 9:30～17:00

### 学習院長官舎(濃茶) 熱海 MOA美術館

尾形光琳筆 国宝「紅白梅図屏風」をはじめとする国宝3件・重要文化財65件を含む美術品約3,500点を擁した質・量ともに日本を代表する美術館、MOA美術館による掛釜です。

### 森鷗外・夏目漱石住宅(薄茶) 犬山 岩田洗心館

岩田洗心館は、城下町犬山で油屋伊勢屋を営んでいた商家岩田家に伝わる書画・茶道具、地元の犬山焼などを収蔵しており、これらは城下町に伝わる茶人の好み色が濃く残っています。

### 日本庭園・野点席 三重 楽山窯 清水久嗣

清水久嗣氏は、1971年生まれの若き陶芸家です。彼の古陶に對峙し、真摯な姿勢から産み出される作品の数々は、多くの人々に好評を博しています。

お問い合わせ・申込先

<http://www.meijimura.com/> または ☎0568-67-0314

※催事内容は予告無く変更・中止する場合がございます。詳しくはお電話でお問合せいただくか明治村公式HPをご覧ください。

## 明治塾



明治村をより深く理解していただくため、5名の研究者にご講演いただく公開講座です。

塾生募集中

### テーマ 修復・復元の現場から

6月1日(土) 東京駅(東京都)	大内田史郎(東日本旅客鉄道株式会社)
7月6日(土) 伝道院(京都市)	二宮 卓也(株式会社竹中工務店)
9月7日(土) 三菱一号館(東京都)	野村 和宣(三菱地所設計)
10月5日(土) 萬翠荘(愛媛県松山市)	花岡 直樹(花岡直樹建築事務所)
11月9日(土) 迎賓館赤坂離宮(東京都)	中嶋 徹(株式会社竹中工務店)

(時間はすべて13時～) (敬称略)

応募資格/明治時代の建築や文化等に興味のある方。

原則5回すべて受講できる方。

定員/50名(応募多数の場合は抽選)

参加費/10,000円(5回分、入村料は別途)

申込方法/受講ご希望の方は往復はがきで、右図のようにご住所・お名前・電話番号・年齢・「明治塾受講希望」とご記入の上、下記宛お申込ください。(平成25年5月24日消印有効)

送付先/〒484-0000 犬山市内山1  
博物館明治村「明治塾」係

事前申込制



# A La Meiji-mura

け継ぎ、美と権力を象徴する文様としました。しばしば南天との組み合わせで描かれ、蝶を配するのは江戸時代の染色文様によく見られます。牡丹と蝶の組み合わせは中国画題に由来しており、蝶と組み合わせることで長寿の意味も含むようになります。

そして控室であった二階の正面に突き出た部屋には慶事や吉祥のシンボルである松竹梅の飾りを見ることができ



写真4 牡丹と南天



写真3 菊



写真5 松竹梅

以上のように一つひとつを見て行くと、東山梨郡役所の天井中心飾りは日本あるいは東洋古来のモチーフで飾られていることがわかります。

では、この天井中心飾りはどのようなものか。江戸時代から、漆喰を扱うのは、土壁などを手掛ける左官職人の仕事でした。その左官職人の技のひとつに「コテ絵」と呼ばれるものがあります。これは漆喰



写真7 千早赤阪小学校講堂 (非公開)



写真6 安田銀行会津支店

を壁を塗る時に使う道具の鏝で塗り上げるようにして動物や人物などの絵を描くものです。「コテ絵」とは言いませが、漆喰を盛り上げて描いていくため、浮き彫りに近い形となります。この江戸時代に培われた左官職人の技術は、明治時代に入ると洋風建築に発揮されます。西洋建築の室内は壁や天井に石膏などを使って装飾することが一般的でした。この装飾を日本で引き受けたのが左官職人たちであり、その職人の技術が垣間見えるのが天井中心飾りなのです。明治一九(一八八六)年には東京左官業

参考文獻  
・長谷川堯『洋館意匠』鳳山社、一九七六年  
・山田幸一監修『日本の壁—鏝は生きている—』INAX、[INA BOOKLET Vols No.2] INAX、一九八五年  
・岡登貞治『新装普及版 文様の事典』東京堂出版、一九八九年  
・東京都江戸東京博物館編『あかりの今昔—光と人の江戸東京史—』一九九五年  
・『日本のかたち』平凡社、二〇〇七年

の組合が、肖像や動物形体が作れる一等工作から、普通絵や模様塗りができる四等工までの格付けを規定しています。職人たちは、こうした取り決めによって洋風建築という新たな様式を受け入れ、その装飾を担う人材の育成を進めていきました。

同じ二丁目建っている安田銀行会津支店(写真6)や千早赤阪小学校講堂の二階(写真7)にも天井中心飾りがあります。これらは洋風の唐草文様が使われており、千早赤阪小学校講堂においてはそこから吊り下げられたシャンデリアと共に、豪華な空間を演出しています。対して日本で長らく愛されたモチーフを使った東山梨郡役所の天井中心飾りは、漆喰で表現された隅石積みや細い円柱を束ねた柱からもわかるように、地元の大工・職人たちの手によって建てられた、擬洋風建築ならではの装飾ではないでしょうか。

明治村に移築された建造物たちには、普段見過ごしてしまいがちな細部にいたるまで様々な装飾が施されています。明治村にお越しの際は、目を凝らし、これまで見つけられなかった装飾を探してみたいかがでしょうか。

## 天井を見上げると

●東山梨郡役所 (2丁目16番地)



した。正面にベランダを廻らせたE字型の建物は、内務省などに代表される当時の官庁建築の特徴を持っていました。県下の大工棟梁、赤羽芳造と左官、土屋庄蔵の手により作られ、いたるところに日本の伝統的な職人の技術が駆使されています。

建物内の天井を見上げてみましょう。正面玄関、事務室として使用されていた一階南側の部屋、二階広間の控室であった正面に突き出た部屋にそれぞれ一つ、二階広間に二つと全部で五つの天井中心飾りがあり、これら全てが白漆喰によってつくられています。

二丁目レンガ通りの突き当たり、重要文化財・東山梨郡役所が建っています。内部を見学されたことのある方も多くいらつしやるかと思いますが、天井を見上げたことはありませんか？ よく見ると、「天井中心飾り」と呼ばれる白漆喰の美しい装飾が残されているのです。

東山梨郡役所は明治十八(一八八五)年に建てられました。当時の山梨県令、藤村紫朗によって山梨県内には数多くの擬洋風建築が建てられ、それらは「藤村式」と呼ばれました。その中のひとつがこの東山梨郡役所で、郡制が廃止された大正十二(一九二二)年まで郡役所として使用されました。その後一時警察署として使用されたこともありま

す。白漆喰の天井を照明の歴史と併せて見てみましょう。照明は江戸をはじめとした都市部で発達し、一般的な部屋の中では手元を照らす行燈や燭台が使われていました。それが明治時代になると石油ランプに取って替わり、明治二十(一八八七)年には一般家庭にも室内灯向き白熱電灯の営業が始まります。天井から部屋全体を照らす照明へと変化していくのです。上からの明かりは行燈などに比べると広い範囲を照らすことができず、日本で馴染みの深い「棹縁天井」などの板張り天井に比べ、白漆喰による天井や天井中心飾りは反射板のように、光をより明るく広範囲に届ける役割を果たしたとも言えます。それでは、それぞれのモチーフを見て



写真1 波に千鳥

みましよう。まず正面玄関の天井中心飾りには、水しぶきをあげる波と三羽の千鳥が描かれています(写真1)。この組み合わせは平安時代から衣服や調度品、絵巻などにも度々描かれてきたもので、波の寄せては返す動きは人生にも喩えられます。さらに千鳥は「千を取る」と読まれ、勝運を呼び寄せる吉祥とされてきました。凹凸に強弱をつけて波を表現することで、臨場感を表わしています。正面玄関は郡役所を訪れる人を最初に迎える場所です。そこに吉祥である千鳥の文様を配置して、地域の人々を迎えていたことがうかがえます。

一階南側の部屋には岩場に生えた蘭と竹、菊、そして小鳥が枝に留まっている梅が描かれています(写真2)。この四種の植物は「梅は寒なれと秀、春来るを率先して報ず。菊は身を軽くし、氣を益し、人の寿を延ぶ。蘭は「善人は蘭の如し」王者の香あり。竹はうつつるなるによりて益を受く」というように、それぞれの植物が持つ特徴から「四君子」と呼ばれ春夏秋冬をも表現しています。中国で好んで描かれたものが日本に伝わり、文人画によく描かれる題材でしたが、のちに一般化して友禅染など衣装にも用いられるようになりました。事務室として使われていたこの部屋に、徳のある人や人格者を意味する君子の文様を配することで、郡政を担う人々への願いを込めていたのかもしれない。

次に二階広間へ行きますと、二種類の天井中心飾りを見ることが出来ます。北側には菊(写真3)、南側は牡丹と南天の二種の植物に蝶が一匹舞っている様子が描かれています(写真4)。菊は平安時代から九月九日の重陽の節会にて宮中で愛でられてきた花で、春の桜と同じように菊を鑑賞する宴も開かれ、さらに鎌倉時代には長寿吉祥の文様となりました。牡丹は中国で「花王」と呼ばれ富貴を象徴する花として観賞されたことから、平安貴族はこの考えを受



写真2 四君子